

デジタルデバイスを用いた泌尿器癌患者の高齢者機能評価と治療反応および予後との関連検討

研究キーワード 泌尿器癌、副作用、効果予測、高齢者機能評価、フレイル

研究概要

- 本邦は世界的に類をみない超高齢化社会となっています。同時に「癌を患う高齢者」が非常に増えています。
- 泌尿器癌（前立腺癌、尿路上皮癌、腎細胞癌）は特に高齢者の割合が高い癌とされています。
- 高齢者の癌診療は①過大治療も過小治療も問題、②高齢者を対象にした臨床試験が少ないため標準治療が不明、③老年症候群を伴うため若年者と同じ治療方針ではうまくいかない、など特有の問題点を抱えます。
- 現在は主に主治医の「見た目」で主観的に患者さんの身体、精神、社会的機能が評価されています。
- より客観的な評価が望まれ、「高齢者機能評価」や「フレイル評価」が推奨されるようになってきています。
- 一方、評価が大変であることやツールが一般化していないことから標準化や普及が予想以上に進んでいません。
- そこで我々は高齢者にも簡単に入力ができ、自動でデータ収集が可能なタブレット端末で複数の高齢者機能評価ツールを実施できる新規デバイスを開発しました（右図）。本デバイスは医療者、患者ともに負担を減らしつつ、これまで取得していなかった患者さんの身体、精神、社会的機能を数値で客観的に評価できるツールとして期待されます（右図）。
- 今回はこのデバイスを用いて、**様々な病態の泌尿器癌患者に高齢者機能評価を取得し、副作用、治療効果、生命予後などとの関連を統計学的に検討し、癌患者の機能評価として有効かどうかを検討する**ことを目的とします。
- 応用としてAI技術を用いた判定結果の自動解析も視野に入れていきます。



SA学生さんへのアピールポイント

- 実際の診療で必要とされながら本邦で一般化していない癌患者の高齢者機能評価を実行し、癌患者さんに最適な治療や情報を提供する新規デバイスの有効性を検証します。
- 患者さんにタブレット上での入力補助を行い、データベース収集と統計解析のみの比較的簡単な臨床研究です（データ統計解析のみの担当も可）。
- 研究が進んでいない分野のため臨床的に重要な知見を得られる可能性があります。
- 指導医の専門である泌尿器癌を対象に研究を行います。成果は広く癌治療全体に応用される可能性もあります。
- 本デバイスの開発を行った医師（成田）を中心に、臨床研究、発表、論文作成を泌尿器科医師から直接指導を受けられます。
- 研究で得られた成果につきましては、日本泌尿器科学会、日本老年泌尿器科学会、日本癌治療学会等の学会で発表していただき、また論文にまとめて学術誌で発表していただくことを目標とします。特に英文雑誌へ投稿できる論文の作成を目指します。

※お問い合わせは、腎泌尿器科学講座 成田伸太郎まで
電話：018-884-6156 E-mail：naritashintaro@gmail.com

対象学年：1～4年生